

○船曳 幸代 横田裕美子

三木 幸代

医療社会事業部

前田 智成 田中久美子

整形外科の年間手術件数は800件を超え、人工股関節全置換術（以下THA）と人工膝関節全置換術（以下TKA）を合わせて、手術全体の25%を占めている。THAとTKAのクリニカルパス全入院期間は22～24日の設定であった。他施設では15日前後のところもあり、クリニカルパスの入院期間の設定が、5階東病棟の平均在院日数を延長している要因の1つだと考えた。地域包括ケアシステムが推進されているなか、多職種連携を強化し、患者満足とQOLの向上を支援しつつ、平均在院日数の短縮を図る方法を検討した。

①THAクリニカルパスの改訂②入院前転院予約システムの導入③リハビリ転院先への施設訪問を実施し、業務改善に取り組んだ。その結果、病棟稼働率は平均96%を維持しつつ、THAの平均在院日数は4.4日、部署平均在院日数は2.9日短縮した。転院患者割合は前年度8.5%から54.4%と大幅に増加し、DPCⅡ期間内での退院割合は、35.6%から92.2%へ増加した。多職種連携から、地域連携へ視野を広げた看護管理実践が、今後さらに必要だと考える。

21. 診療情報管理士が見たがんゲノム医療の実際

がん診療連携課

安東 正子 藤田 裕子

伊藤 絢子 安井 典子

嶋屋 智子 内 幸恵

山根美代子 井上 豊子

がん診療連携課は、2018年4月の組織改編により発足した。地域がん診療連携拠点病院（高度型）として指定要件に沿った専門的ながん医療、がん患者・家族に対する相談支援、情報提供等を円滑に実施できるよう援助する役割を担っている。

また当課は、2018年2月に立ち上がったゲノムカウンセリング室の事務局として岡山大学病院と連携を取りながら院内システムの準備を進め、2019年9月より、保険診療によるがんゲノム医療を開始した。

2019年12月末までの実績は、エキスパートパネル8件、うち治験の提案があったものが4件であった。

エキスパートパネルを実施する症例は、国立がん研究センターがんゲノム情報管理センターC-CATシステムへのデータ提出が義務付けられる。診療情報管理士として登録業務を担当しているが、患者への説明方法やタイミング、診療報酬について等、様々な問題点も見えてきた。

間近で見たがんゲノム医療の実際を通して、現況を報告したい。

22. 化学療法センター看護師が行う診察前問診に対する患者の認識

外来化学療法センター

中村 孝子 山根美代子

福井由紀子

化学療法センターでは、2006年開設当初より自宅での体調変化や生活での困りごと等を確認し、医師と情報共有を行うこと、また患者のセルフケア支援を行うことを目的として化学療法センター看護師が問診票を活用し面談で診察前問診を行っている。今回、患者が診察前問診についてどのように感じているかを明らかにするため、2019年2月1日～28日の期間、化学療法センターで治療を受けている患者332名を対象に、自記式質問紙調査を実施し、質的帰納的に分析したので結果を報告する。